

令和6年度 第2回 舞阪中学校 学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年7月2日（火） 14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 舞阪中学校 1階 会議室
- 3 出席委員 渡邊 東一、鈴木 孝一、江間 雅尾、河合 數馬、小内 正枝、片桐 美恵子、菅沼 洋美、佐々木雄一
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 河合 一徳（舞阪支所副支所長）
- 6 学 校 中村 真由美（校長）、松下 宏幸（教頭）、鈴木 朱美（教務主任）、川合 良幸（防災リーダー）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 田岡 忍
- 9 議長の選出

議長は令和6年5月13日（月）前回会議（第1回）の経緯より、片桐委員が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 防災について
- (2) キャリア教育の実践について

11 会議記録

司会の松下教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 防災について

防災リーダー川合より、別紙資料に基づき、予告なしの避難訓練や舞中防災の日の取組について、説明があった。

議長から、このことについて、各委員に気づいたことを挙げるよう提案があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・放課後実施された予告なしの避難訓練は、生徒がどこにいるのか、把握がとても難しいと感じた。また、それぞれいる場所が異なる時、避難マニュアルはどう共有されているのか、最終避難場所が指定されているのか、生徒をまとめるリーダーはいるのか、これからの課題となる。
(鈴木委員)
- ・実際に地震がおきた場合、避難経路が安全かどうか心配である。(鈴木委員)
- ・舞阪は浸水エリアになっていて、生徒だけでなく地域住民も小学校や中学校に避難してくるので、避難場所の確保も重要だと思う。(鈴木委員)
- ・生徒は避難所の体験として、固いフロアで寝る、非常食を食べてみるなど、実体験をしておくことも大事である。(鈴木委員)
- ・自分の命を守る為には、どういった行動をとった方がいいのか、訓練で確かめるべきである。
(鈴木委員)

- ・予告なしの訓練で、職員室前のヘルメットが活用されていなかったが、着用すべきではないのか。(河合委員)
- ・先生の避難指示に生徒がすぐに対応して良いと思った。(河合委員)
- ・自転車通学の生徒は、避難時にすぐヘルメットを被ることができるように、教室に置くなど、近くにあったらよいのではないか。(河合委員)
- ・避難訓練後の校長や防災リーダーの話は、生徒がしっかり聞く良い話であった。(河合委員)
- ・消火栓の放水体験では、消防署の方の話をしっかり聞いて、大きな声で一生懸命取り組んでいた。(河合委員)
- ・暑い時の訓練は、待機時や話しを聞くときなど、熱中症対策の考慮が必要である。(河合委員)
- ・実際の災害を考えた時に、生徒は第一に逃げる為、中学生に消火栓の訓練が必要なのか。
(渡邊委員)
- ・登校時に災害がおきた場合、生徒は自宅に帰宅させるのか、学校で待機しておくべきなのか、判断が難しい課題となる。(渡邊委員)
- ・地震が発生し、次に津波がくるタイムラグは、どうキャッチするのか。まずはすぐに、生徒を上にあげる必要があるのではないか。(渡邊委員)
- ・あらゆる災害に危機感を持つ為に、避難訓練は予告なしで行った方がいいと思う。(江間委員)
- ・実際に起震車体験(40秒)をし、地震がいつおさまるか分からない恐怖と、不安を感じた。
(江間委員)
- ・体験や訓練を重ねていかないと、いつ、何ができるのか分からないと思う。(江間委員)
- ・実際にホースから水を出す時、想像以上に水圧がかかる為、掛け声やホースの持ち方をもう一度確認する必要があると思った。(江間委員)
- ・自分事として、訓練をやることが大事である。(小内委員)
- ・舞中防災の取組はとてもいいと思った。(小内委員)
- ・生徒含め、地域の防災訓練の参加率をあげる為には、どうしたらいいのか。(小内委員)
- ・自転車通学の訓練はどうするのか。特に、1年生には入学後、すぐに指導してほしい。
(菅沼委員)
- ・舞中防災の日は、家庭で子供と防災グッズの場所や、自分は何をしたらいいのか、話し合えるいい機会だった。(菅沼委員)
- ・東日本大震災の動画や教員の資料を見て、防災意識が高まったので、被災された方から、苦労や困難、恐怖などの実体験の話を聞くと良いと思う。(佐々木委員)
- ・避難所の体験として、避難してはじめての3日間をどう過ごすのか、シュミレーション学を取り入れていくのもよいのではないか。(佐々木委員)
- ・避難の仕方など、ちょっとしたことが命の別れ目になると思う。(佐々木委員)

(2) キャリア教育の実践について

教務主任鈴木から、別紙資料に基づき、キャリア講座報告、キャリア講座実施の目的、成果と今後の取組について説明があった。委員からの発言は以下の通りである。

- ・生徒が自分の目で観て、感じる事が大切である。日常にない体験や経験をすることも大切

だと思う。(鈴木委員)

その他連絡事項等

議長から、職場体験の件で、不景気などの影響で受け入れが難しい場合がある為、学校側の希望や、体験先のアイデアを教えてほしいと報告があった。

田岡CSディレクターから、次回の会議は、令和6年11月18日(月)午後1時30分から1階会議室で開催する旨の報告であった。

第3回議長の選出について、小内委員が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。